

鎌倉市ごみ処理基本計画中間見直し（素案）	意見等の概要	考え方・対応
6 その他	・廃棄物焼却施設は、市民生活にとって最も必要な施設であり、広域処理だけではなく、市単体での焼却施設の新設の可能性も計画に載せるべきです。焼却施設の技術は年々進歩しており、山奥に作らなければならないような理由はないので、例えば、野村研究所跡地の利用など大胆な発想が求められるよう思います。	本市にとって新たなごみ焼却施設の整備は重要課題であり、逗子市との広域的なごみ処理を基本に、逗子市と積極的に協議を進めていきます。また、焼却施設の新設にあたっては、有効なエネルギー活用を図っていきます。
	・将来のごみ焼却施設は逗子市と十分な協議を行い検討すると記載されていますが、主体が逗子市にあるように受け取れます。長期的にごみの焼却設備はなくなることがないので鎌倉市としての基本ポリシーを入れるべきではないでしょうか。	
	・バイオマスはよいと思いますがコストがかかりすぎるのでコスト面を考えると焼却がベストと思います。かかったコストが税金等に跳ね返ることは鎌倉市の地域経済の悪影響になる。	
	・今回の原発事故から原子力による発電政策の大幅な見直しが考えられます。燃やすごみがある以上それを有効活用する方向を将来に向けて謳うべきではないでしょうか。分別の種類はできるだけ少ないほうが手間が省けるので望ましく、燃やせるものは燃やしてごみ発電をする方向の時期だと思います。 将来のごみ焼却施設は発生する熱源をごみ発電等に有効に使用する方向を打ち出して逗子市と協議をすべきではないでしょうか。 名越クリーンセンターで平成 27 年度以降も焼却するのであれば、次の 10 年間の基本計画に向けて、名越の焼却発生熱の有効利用方策の検討を盛り込み、地域還元できるものにつながることを望ましいです。	
	・進化した焼却機は全く不要だと思います。よく分別し、仕分けをすることで今ある焼却炉で十分だと思います。	
	・計画では、ごみ焼却施設の重要性は認識しつつも用地確保が困難であり、どうなるかわからない他市への依存を期待していることがわかりますが、逗子市の対応はどうでしょうか。また、鎌倉市としてこれでよいのでしょうか。	
	・広域化を視野に入れていると思いますが、具体的な話が進んでいないことに望みを託すやり方は行政としての責任がとれないのではないのでしょうか。	
	・逗子市との広域処理については破綻していると考えています。分担金としてほぼ全額の建設費や運営費を払うぐらいでないと見込みはないと思います。	
	・ごみ焼却施設については平成 27 年度までは名越・今泉両クリーンセンターを使用することとしています。今のごみ焼却施設に特に手を加える必要なく使用できると受け止めていますがその考え方でよいのでしょうか。	今泉クリーンセンターは平成 27 年度までで焼却を停止する計画です。名越クリーンセンターは、その後 10 年間程度は焼却を続けるため、延命化工事を実施します。
	・今泉クリーンセンターについて平成 27 年度を目途に焼却を停止すると 36 ページに記載されていますが、3 町内会との覚書に定める操業停止時期よりも遅れるもので覚書違反です。覚書を遵守して操業停止時期を早めるように要望します。	

	<p>・山崎浄化センターを活用した生ごみ資源化計画により、数年後には今泉クリーンセンターは閉鎖されると聞いていました。計画変更されることなく推進され、1日も早い、今泉クリーンセンターのごみ焼却停止を要望します。</p>	<p>今泉クリーンセンターは平成 27 年度までで焼却を停止する計画です。名越クリーンセンターは、その後 10 年間程度は焼却を続けるため、延命化工事を実施します。</p>
	<p>・今泉の焼却炉は今泉、岩瀬地域の公害となっているので早く止めてほしいです。</p>	
	<p>・今泉の焼却炉はすでに停止していなければなりません。新しいものを早く作ってほしいです。</p>	
	<p>・今泉焼却炉は住民との約束を守り平成 25 年度には停止させるべきです。</p>	
	<p>・素案では今泉クリーンセンターの稼働停止の期日が曖昧です。市長の任期中に今泉を止める目途が立つ計画ではありません。</p>	
	<p>・ごみが減らなかったときの保管策について明記がありません。焼却を止めた後の今泉クリーンセンターの具体的な利用についても示されていません。稼働停止後の焼却炉の取り壊しについても何も記載されていません。</p>	
	<p>・今泉クリーンセンターの稼働停止が平成 27 年度ではなく、平成 27 年 3 月までになれば覚書違反にはなりません。</p>	
	<p>・今泉クリーンセンターの稼働停止時期について新たな覚書を取り交わす予定があるのであれば市長の任期中に達成できるものでなければ意味が無いです。</p>	
	<p>・今泉クリーンセンターは小規模焼却炉による高温燃焼が不可能なため、ダイオキシン発生が問題視され早期の廃止が決まっていますが、名越クリーンセンターによる受入れ拒否や、市のごみ半減化未達成から、改修工事により延命され現在に至っています。今またさらなる継続使用が予定されることは、地元住民にとっては認めがたいものです。速やかな廃止をお願いします。</p>	
	<p>・横浜市本郷小学校のぜんそくが多いのは今泉焼却場が原因とも言われ、今泉クリーンセンターの焼却をなくすためなら横浜市の協力も得られると思います。先日市会議員と会ったところ、業者へごみ焼却を頼めるとの確認をしました。やる気があれば H25 の今泉クリーンセンターでの焼却は約束通りやめられると思います。</p> <p>今泉台のガン・ゼンソクは多いですから調査してください。</p>	
	<p>・減量方策が計画通りに進まないからと今泉クリーンセンターの延命化は困ります。長年の約束は絶対に守ってください。</p>	
	<p>・リサイクル率 1 位の環境意識の高い鎌倉市民であれば施策が適正であれば大幅な減量は可能です。厳しい事業系ごみのチェック体制と組織的な生ごみの資源化を実施すべきです。減量に成功をおさめ、一日も早く今泉クリーンセンターでの焼却をやめてください。</p>	
	<p>・今泉焼却炉は平成 27 年度の停止予定となっていますが、近隣住民とはそれ以前の約束をしてあるはずです。また、停止後の具体的な代替案が書かれていないのは無責任だと思います。</p>	
	<p>・ごみ処理行政について長期的展望がありません。平成 16 年の今泉クリーンセンター改修工事に伴う覚書締結以来すでに 7 年を経過、何故これからなのでしょうか。覚書など</p>	

	どうしてもよいと思っているのでしょうか。今泉クリーンセンターは 27 年度めどに停止するとしていますが、長期的に考えた場合、名越の 1 焼却施設のみで対応可能なのでしょうか。仮に 27 年度において目標が達成できなかったときはどうするつもりなのでしょうか。目標が達成できなくても今泉は焼却停止するのでしょうか。覚書では「平成 25 年度までの稼働を目標とする」と明記されていますが、この中間見直しでは、27 年度を目途に焼却を停止するとされています。納得できません。	今泉クリーンセンターは平成 27 年度までで焼却を停止する計画です。名越クリーンセンターは、その後 10 年間程度は焼却を続けるため、延命化工事を実施します。
	・今泉の焼却炉は老朽化しており停止すべきです。	
	・「アクション・プログラム」により毎年度の実績を検証し翌年度の対策を構築していくこと（P38）も至当な施策であると思います。	
	・平成 23 年度のごみ焼却対象量を 100 とした場合、削減量の累計は 23 年度比で 27 年度は－35 となり、年度ごとの差は 23 年度から 24 年度は－4、24 年度から 25 年度－4、25 年度から 26 年度は－12、26 年度から 27 年度は－15 となります。市長在任の 23～26 年度までに累計で－30 まで減量できれば最終年度は達成できるが、最終年度に前年度から－15 というのは全体目標・35 に対して 43%に該当するため大いに疑問があります。	本計画を着実に推進していくために、毎年度、具体的な取り組みを定めた「アクション・プログラム」を作成し、毎年度の実績を公表します。 また、中間年度にあたる平成 25 年度においては、平成 24 年度末までの達成状況の評価を行いながら、平成 27 年度までの計画の再構築を行います。
	・見直し案の計画年次の設定が無責任です。平成 27 年度までの 5 年間の計画でありながら、家庭系ごみの有料化、事業系ごみ手数料の改定、中小規模事業所の生ごみ資源化の促進といった鍵になりそうな事業が平成 26 年度、27 年度と後半に設定されています。本気で実施するのであれば 23 年度、24 年度と計画の前半で取り組むべきです。市長が公約として生ごみ資源化施設建設を見直し、見直し案で焼却量を安定的に削減するのであれば目標年次は平成 27 年度ではなく、市長の任期中の平成 25 年度とすべきです。	
	・ごみの有料化や事業者のごみ処理手数料の値上げという即効性のある施策が平成 26 年度や 27 年度にしか設定されていないのですか。市長の任期は終わっているのではないのでしょうか。	
	・ごみ焼却量を削減する方策はよいことですが、努力目標ともいうべきもので、不確実な要素が多すぎます。例えば最終の平成 27 年度単年度で、過去 3 年分（24～26 年度）の削減量を超える数字を計上しているが、なぜ前倒しして市長在任中にできないのでしょうか。	
	・素案は今できる最大の努力がはらわれていると受け止めていますが、前回のバイオマスのように実施に長い時間がかかる計画が見当たりません。もっと実施時期は前倒しできると思います。今泉クリーンセンターの期限内の使用停止のためにも、この計画の早期実現を市長の今任期中にお願いします。	
	・名越・今泉クリーンセンターの焼却炉の老朽化と閉鎖に伴う、H27 年度迄の一般廃棄物処理基本計画は些か性急すぎるように思われます。	
	・約 1 万トンのごみ焼却量の削減について合理的な理由が示されていません。焼却施設の移転問題を先送りし、実現不可能な 1 万トン削減計画をゴリ押しすれば、今泉クリーンセンター閉鎖期限の平成 27 年度末にはごみ処理に大きな問題が生じるのは火を見るより明らかです。 ごみ焼却量 1 万トンの削減について合理的な理由の提示を強く求めます。	
		計画にはデータ編を設け可能なかぎり推計の根拠となるデータ等を掲載していきます。

	<p>・見直し前との比較対照表の添付がありません。</p>	計画にはデータ編を設け可能なかぎり推計の根拠となるデータ等を掲載していきます。
	<p>・家庭系ごみの減量が 25 年 946t、27 年 5,339t と突如激減し、事業系ごみの減量、資源化対策実施後の発生量の推移が 26 年 9,822t から 27 年 4,349t と一年で半減している根拠が理解できませんので説明を求めます。</p>	
	<p>・CO2 について焼却による減少のみ比較されており、大型生ごみ処理機の設置による環境負荷が計上されていないなど正確な判断が乏しい素案だと思います。</p>	大型生ごみ処理機の設置にかかる環境負荷も計算に含んでいます。
	<p>・5 年間の推計で家庭系ごみ事業系ごみが年当たり 4 万トン、2 万トンとなっていますが鎌倉市規模の自治体として妥当な数字なのでしょうか？</p>	過去の実績値から推計し、家庭系ごみ 5 万トン、事業系ごみは 2 万トンとしています。
	<p>・今回の震災や東京電力福島第一原子力発電所の事故をきっかけに、国のエネルギー基本計画が全面的に見直されることになりました。市民生活レベルでの省電力および温室効果ガスの排出削減が一層求められることは間違い有りません。ごみ処理基本計画中間見直し（素案）（以下：本素案と称す）ではⅡ－6（2 4 頁）の「ごみの発生抑制、再利用、再生利用、焼却量、環境負荷の目標」で温室効果ガス排出量の目標値が記述されていますが、省電力に寄与するならば、その旨も書き込むべきでは無いかと考えます。</p>	温室効果ガス排出量については、平成 20 年 6 月に環境省からだされた「ごみ処理基本計画策定指針」に基づき今回の計画に記載しました。省電力についての評価は今後の課題とさせていただきます。
	<p>・滞在者の果たすべき役割が記載されていますが、市の計画に記載されることに違和感があります。滞在者の役割ではなく事業者や行政が滞在者に対してすべき役割として整理するほうが自然だと思います。</p>	「滞在者」とは「観光旅行者、市内に通勤または通学する者、その他市内に滞在・市内を通過する者」と定義しており、計画に記載します。 滞在者の方にも鎌倉市のごみ事情を理解し、また協力をしていただきたい考え滞在者の役割を記載しています。
	<p>・素案Ⅱ－7（2 5 頁）の「3 R 推進のための市民、事業者、滞在者、行政の役割」で「滞在者」という言葉が初出しますが、その言葉の定義を記載してください。素案 2 6 頁の「滞在者」の取り組みの最後に「観光客」の取り組みが記述されていますので一般の観光客とは違うと解釈してよろしいのでしょうか。そうだとすると、どのような手段で「市民」「事業者」と区別し、その役割を伝達するかも記載すべきと考えます。</p>	
	<p>・意味不明な文、説明不足の文が多く、市民に対して不親切で不完全な素案です。偏った情報に基づいて市民から意見を募集することは市民を愚弄しており、行政としての責任が問われます。例えばごみ処理の課題（1）（イ）「分別品目を増やすことなく、資源化品目を拡大する」は具体が書かれていないので理解できません。</p>	できるかぎりわかりやすい表記としていきます。
	<p>・素案の行政言葉の分かりにくさは、大いに改良していただきたいと思います。</p>	
	<p>・素案は、どこを見直し、何を新しく提起したのか分かりにくい案です。ポイントを押さえ、横文字などはやめて年寄りにも分かるように提起してください。</p>	
	<p>・観光客が排出するごみの量と質をどのように見ているのでしょうか。1,950 万人の観光客の問題に触れていないのはおかしいと思います。外来者から応分のごみ処理費を直接取ることは難しいと思うので、間接徴収（飲食業、鉄道・輸送業、宿泊業、寺社等）を行ってはどうか。</p>	ご意見として受け止めます。
	<p>・資源化率は平成 16 年度から 5 年連続で全国一位とのことだが、同様な比較をゴミ処理コスト（P8⑥）で行ってほしいと思います。</p>	資源化率は環境省から発表されているものですが、ごみ処理コストについては各市町村によって算出基準が異なることから、比較することはできません。

	<p>・プラスチックを燃やすことで温室効果ガス排出量を減らすようプラスチック製品や包装を考え直すよう市民や企業や国に要望をしていく鎌倉市になってほしいです。</p>	容器包装プラスチック同様にプラスチック製品についても資源化できるよう県・国へ要望しています。
	<p>・市役所前の「堆肥をどうぞお持ちください」は感動しました。緑のカーテンもっと宣伝してください。苗を 5 本まで買った人は「推進協力者」としてハーブのポット贈呈なんて、週末の観光地の寺寺であったら、他所からのお客様は何と思うでしょう。宗教法人は税金を免除されているのですから、現実的な協力を仰いでください。「ごみ問題は寺寺から、鎌倉」鎌倉らしくていい宣伝文句になりませんか。「せっかく少ない工場」には責任をしっかりと果たしてごみ処理を自分の所ですてほしいものです。今こそ、日本の日本人が殊勝な気持ちになって生きてこうとしているチャンスです。逃して欲しくありません。</p>	ご意見として受け止めます。
	<p>・ごみを減らすには市民や事業者の協力が不可欠、市民の意識改革が重要です。環境ニュースや広報かまくらなどでごみを減らすことに重要さや今泉の焼却炉が使えなくなることを伝えていくことが大切だと思います。また、ごみの減らし方、出し方を項目別に詳しく紹介したり、モニターを募集しごみを減らす工夫をしてもらい、その内容について環境ニュースなどでお知らせをしたり、焼却炉の見学会の実施や、最終処分場への埋め立てを行っていないことなど現状をもっと市民に理解してもらうことが重要です。</p>	市民、事業者の方に、鎌倉市のごみをめぐる課題やごみ処理費用等について、広報等の印刷物やホームページ、説明会を通じて、様々な工夫をこらして、積極的にお知らせしていきます。
	<p>・現在の今泉クリーンセンターは、2015 年には停止、名越クリーンセンター 1 ケ所だけでは不安です。ゴミはどんなに分別しても毎日出るものです。毎日の生活と切りはなせない問題です。市はもっと多くの市民に説明してください。市民が安心できる施策を実施してください。</p>	
	<p>・ごみ問題切迫に対する市民意識が低く、情報提供が不足しています。(他、同意見 9 件)</p>	
	<p>・どのようなごみ対策を実施するにしてもごみの減量化が求められると思いますが、処理施設をどうするのかという議論が先になっている印象があります。処理施設に関しての情報を市長サイドの意見とバイオ施設推進派の議会の意見を透明性をもって市民に伝え、この時勢にそれだけの税金を投入する価値があるのかどうか検討すべきではないでしょうか。広報などを活用してごみの減量化と施設建設との関連を訴えてはいいかかでしょうか。</p>	
	<p>・住民一人一人がごみの分別をよく理解して、転入者や大型マンション建設時は不動産会社を交えた仕組みを作り、もっとごみの P R をすればバイオマス設備を作る必要はないと思います。避難場所にしてください。</p>	
	<p>・今回のごみ問題に対して、一般市民の認知度があまりにも低いと思います。感心のある市民だけではなく広く広く情報を流し、考え直さなくてはならない一件だと思います。</p>	
	<p>・推進体制について、市民が選んだ議会が決めたことは、よくても悪くても市民の審判を受けます。市民委嘱の推進員と推進体制はどういう位置にいらっしゃるのでしょうか。議会に報告し、公表することが大事だと思います。</p> <p>ごみの有料化が出されていること、バイオマス構想がなくなっていることなどは、皆に知らせなければ大変なことになると感じました。</p>	

	<p>・ 3 Rが好成績なようですが、そのための税金についてももっと強調してもよいのではないのでしょうか。ごみを持ち込まないことが理想です。バイオマス施設建設を主張している市議もいるようですが、具体的なことは市民に伝わっておらず、市長と議会の対立となっています。ごみ問題の主役は市民です。予算、効率など全てを明確にされて双方から意見を聴く場を設けて欲しいです。ごみ減量化の啓発とバイオマスの有効性の可否を市民に詳しく周知してください。</p>	
	<p>・ 町内会を通じて回覧される環境ニュースは市民のごみ、資源に対する意識啓発に効果があるのでしょうか。マンネリ化していると思います。町内会のごみの役員と町内会とのコミュニケーションが十分に行われているようにも思えません。</p>	
	<p>・ ごみを減らす努力をすることと、広く市民に知らせることが大事だと思います。</p>	
	<p>・ ゴミ処理施設に関しては、安全性やコストを同じ指標、同じ項目で比較し、検討していくことはできないのでしょうか。</p>	
	<p>・ 今回の震災や原発事故を受けての対策が喫緊の課題だと思います。県内でも南足柄でお茶の放射能測定値がレベルを越え回収されたと報じられていますが、「ごみ」として処理するにしても簡単に焼却することができないと思います。現時点でどのようにこの対策をすべきと考えられていますか。行政としても他自治体とも連繋してこの問題を見直し案に取り入れて検討すべきだと思います。</p>	<p>これまで国は、放射能で汚染された可能性のあるがれき等、原子力発電所の敷地外で大量の放射性廃棄物が出ることを想定しておらず、廃棄物処理法でも想定していません。</p> <p>今後、市としては環境省が示す処理に従って放射性廃棄物を処理することとなります。</p>
	<p>・ 次の選挙で候補者の賛否を比較一覧を掲出し争点にしたらいいのではないのでしょうか。</p>	<p>ご意見として受け止めさせていただきます。</p>
	<p>・ 審議会、推進員、市民会議、行動チームと作りすぎです。統合整理することが必要だと思います。</p>	<p>ご意見として受け止めさせていただきます。</p>
	<p>・ 当ビル全 7 室は戸別有料ゴミにだしています。各室の方々には生ゴミはなるべく少なくだすようにお話ししています。以前はクリーンステーションに出していましたが、とても量が多く、何でもとりあえず出してしまうことがあります。週 2 回を週 1 回にするためにはより細分化すると功を奏します。</p>	<p>今後の検討事項とさせていただきます。</p>
	<p>・ 観光地をうたうなら、公共用ごみ箱を駅などに増やして気持ちよく帰ってもらった方がいいのではないのでしょうか。</p>	<p>現在、J R の各駅に 2 か所ずつ分別式大型ごみ容器を設置していますが、ごみは持ち帰りを基本として皆様にご協力をお願いしていますので、当面ごみ箱を増やすことは考えていません。</p>
	<p>・ 紙おむつを減らすため、布おむつを購入する人への補助をお願いしたいと思います。赤ちゃんが紙おむつを卒業するまで約 2 トンごみを出すと言われていますが、水を含んだ紙おむつは焼却炉の負担にもなりますし、石油からできた化学製品ですのでダイオキシン発生の原因にもなります。トータルでみれば洗って使える布おむつは紙おむつよりは安上がりですが最初にまとめて購入するので割高感があるので購入費の 5 ～ 10 % 程度の補助がいいと思います。鎌倉市の妊婦さん向けの教室でも、布おむつについての説明は少なかったと思います。ごみ発生抑制につながることで検討してください。</p>	<p>ご意見として受け止めさせていただきます。</p>
	<p>・ ごみ減量化に市民はもう十分に協力しています。間違いのないように曜日を確認して捨てることが一年ごとにきついと思うようになり始めています。生ごみの処理は余り負担に感じない方法が良いと思います。</p>	<p>多様化したライフスタイルや高齢者や子育て世帯に配慮した分別や排出方法を引き続き検討していきます。</p>

	<p>・燃えないごみが月一回は不便です。せめて週一回にしてください。</p>	<p>多様化したライフスタイルや高齢者や子育て世帯に配慮した分別や排出方法を引き続き検討していきます。</p>
	<p>・①煙を熱利用、②レジ袋、③包装紙、④パッケージの問題、⑤大気の空気を浄化する方向、⑥他市の協力、⑦ダイオキシン発生に伴う公害不安を解消してほしいです。また、大気に含まれる有害と思われるものの調査費用を組み立てることもお願いします。</p>	<p>名越・今泉のクリーンセンターにおいては、排出ガス中のダイオキシン類調査の他、周辺大気環境調査を定期的に行っています。また、市役所屋上においても大気汚染状況を常時監視しています。</p>
	<p>・自治会で持ち回りのカゴの始末はできないことがあって、市が指導して、そこに近い人に自治会費から多少払ってもやってほしいと思います。</p>	<p>クリーンステーションの管理・運営は利用している方をお願いしています。</p>
	<p>・集合住宅建設の許可を乱発すれば人口は増え、当然ごみも増えます。先を見通した施策がほしいです。</p>	<p>平成 18 年度から平成 22 年度までの人口推移を基に平成 27 年度までの人口を推計し、計画の見直しを行っています。</p>
	<p>・鎌倉市の太陽光発電の補助金が県内でも少なく、屋根にソーラーパネルをみることがありません。環境問題はごみだけではありません。</p>	<p>本市では、地球温暖化対策として太陽光発電システム設置の補助制度を設け、再生可能エネルギーの導入を推進しています。</p> <p>今後も補助制度の内容も含め、市民の皆様が導入しやすい環境整備を図り、普及に努めてまいります。</p>
	<p>・高齢者世帯ですが、まだ自力でクリーンステーションまで出していますが、「声かけふれあい収集」は大変よいと思います。</p>	<p>今後も継続してまいります。</p>
	<p>・エネルギーとしての資源の見直し及び自然の力を循環させる考え方が今必要で大事だと考えます。ごみを出さないサービスや運営をお店としてもおすすめします。</p>	<p>ご意見として受け止めさせていただきます。</p>
	<p>・税金の負担を重く感じます。好きな鎌倉にこれからも心地よく住みたいという想いがありますのでこれ以上無駄に税金を増やさないで欲しいと思っています。</p>	<p>ご意見として受け止めさせていただきます。</p>